

～ 青木雪卿が描いた善光寺地震絵図 ～

現在との対比

「感応公丁未震災後封内御巡視之図」は、善光寺地震(1847)から2年経った嘉永2年(1849)に、松代藩主真田幸貫が藩内を巡視した際に、随行した藩のお抱え絵師、青木雪卿氏が描いた67枚の絵図である。絵図は嘉永3～4年に完成したとされている。絵図の作成は地震対策が一段落し、領内が復興してきている時期のものであるが、被災地の状況が示されており、この絵図から地震で発生した山崩れの状況を知るのに極めて役に立つ資料である。

なお、青木雪卿は、地元の清野村(当時)の出身で、文化元年(1804)に生まれ、明治34年(1901)に亡くなっている。

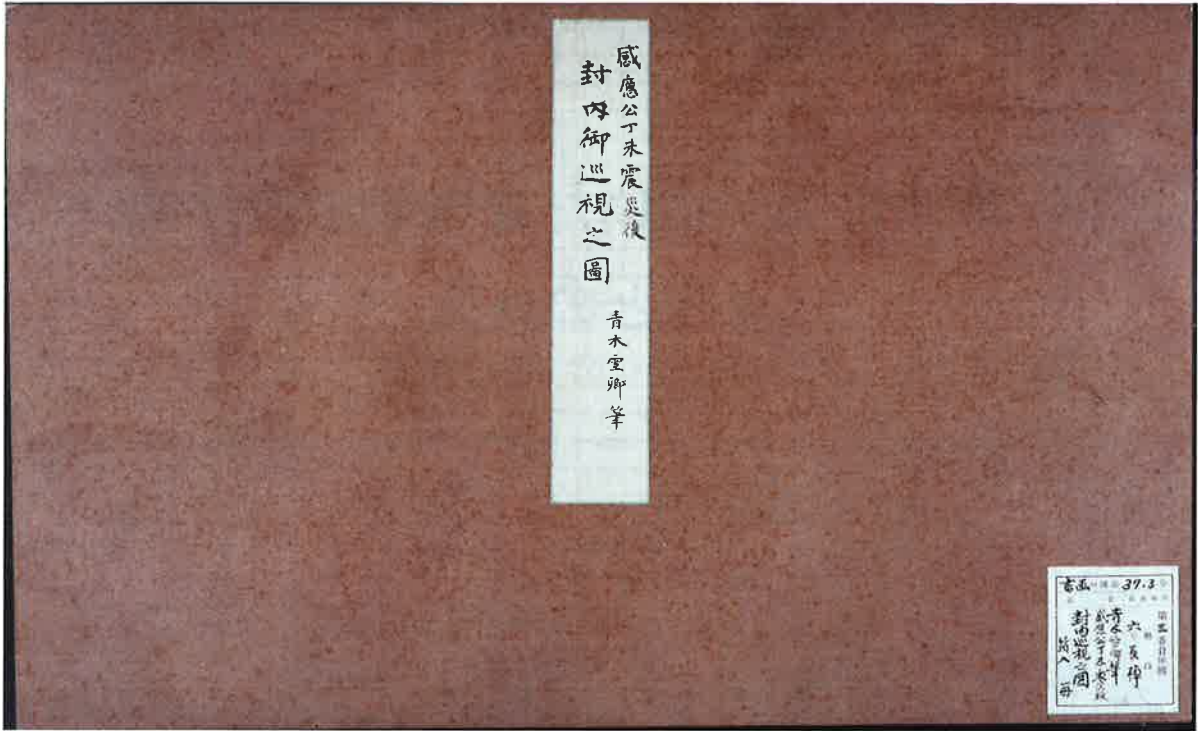
この青木雪卿が描いた絵図の場所を探し出し、同じ場所から長野県砂防課OBの小熊友和氏(現日本総合建設(株))が、現在の状況を撮影して、両者を比較できる資料を作成していただきました。

以下に、これらの資料を掲載します。

貴重な資料を提供頂いた小熊友和氏に改めて御礼を申し上げます。

かん のう こう ひのと ひつじ しん さい ご ほう ない ご じゅん し の ず
感 応 公 丁 未 震 災 後 封 内 御 巡 視 之 図 と 現 在

小熊 友和



藩主の封内巡視は、地震後2年目の嘉永2年(1849年)に、3回に分けて行われており、絵図の完成は、それから1～2年後であり、震災直後を描いたものではない。

(有旅坂 N055に嘉永3年、源信寺之図 N024・茂菅村鎮護峯 眺望 N069に嘉永4年とある)

絵図の編冊は巡視の順番になっていない。

第3回目の巡視の時の図をまず入れ、続いて、第2回目、第1回目と並べてあり、巡視の順とは逆である。

内容を見ると「封内巡視の図」という標題になっているが、巡視の状況を描いたものは、第3回目の巡視の時の絵図だけである。従って、第1回目から巡視の状況を描こうという意図をもっていたのか、疑問である。

巡視の時には、スケッチをし、後に何回かに分けて描いたものと思われる(非常に細かなところまで描いる)そのためか、順番が前後しているものがある。

この絵図は、何を目的として作成され、誰が見たり、利用したのか、また、どの様に編冊されたのかという点では、史料に明記されたものがない。そのため、いろいろな意見や推測がなされている。このような場合、絵図そのものを十分に検討し、他に残された史料と比較照合して参考するしかない。また、絵図の精度は現地と比較して判断する必要があると考える。

160年前に善光寺地震で被災した地域が、現在どの様になっているか観ていただくと共に、青木雪卿の詳細な絵は、何を現代に伝えたかったか、それぞれの観点で絵を楽しんでいただければ幸いです。

(なお、以下の図面番号は、「善光寺地震と山崩れ」(長野県地質ボーリング業協会 発行)のP53・54の平面図の番号で整理をしています。)

○「松代藩主の西山中巡覧記」(仁科淑子「松代」8号(1995)に、藩主真田幸貫の封内巡視の行程が記されています)

・絵図NO.1からNO.24は、以下の行程で描かれています。

第三回目の巡行 千曲市大田原 長野市大岡 信州新町牧野島 方面 二泊三日

嘉永2年(1849)閏4月14日 一日目の行程

長野市馬喰町(松代城)―清野―二軒茶屋(赤坂の舟渡)―小森―御幣(おんべ)川―塩崎―稲荷山―桑原村本陣 柳沢量平(松代より三里余)

篠ノ井街道

西街道

―田原坂峯(桑原から二十三丁)―大田原村―小田原―大花見(おおげみ)池(田原坂峯から一里二丁五十四間)―中牧村(大花見池より二十六丁十二間)―南牧村―米田和―外花見―内花見高巖寺(南牧村より一里九丁五十四間)

本日の行程 約28.6 km

嘉永2年(1849)4月15日 二日目の行程

内花見村高巖寺―宮平―樺内村―天宗寺門前―芦ノ尻金毘羅社(内花見より三十五丁三十六間)―笹久(ささきゅう)村―白井沢村下原(芦ノ尻より三十三丁十八間)―笹久(大黒岩を遠望する)―芦ノ尻金毘羅社―門増(もんぞう)村(下原より壱里六丁二十四間)―石津村―町田村―和平―大田和村(門増より三十丁二十二間)―川口村安賀(やすか)(大田和より二十八丁)―日合(にちあわせ)組―北小松尾―又風(またかぜ)―内花見高巖寺(川口村より壱里十八丁十四間)

本日の行程 約21.5 km

嘉永2年(1849)4月16日 三日目の行程

内花見(うちげみ)高巖寺―荻窪(おぎのくぼ)村―上栗尾(かみくりお)村―下栗尾村―南牧村―倉田和(くちくらたわ)組―澄(住)平―瀧沢―小峰 牧田中村 興禅寺裏大門(お泊より壱里三十四丁四十四間)―牧野島村 古城跡(牧田中村より十町十四間)―下市場村舟渡―里穂刈村新町(牧野島より二十五町)―上条村源真寺(新町より八丁二十間)―橋場(上条村源真寺より十四丁八間)―今泉村むとう坂―氷熊村堀田沖―境新田村―赤田村松山組(橋場より一里十九丁六間)―ニッ柳村 方田

(赤田より一里五丁十二間)―布施五明村(ニッ柳村方田より十七丁)―布施高田村―小森(ここから篠ノ井街道で往路)―二軒茶屋(舟渡)―清野―(布施五明から松代城まで7.0km)馬喰町―松代城

本日の行程 約33.6km

「松代藩主の西山中巡覧記」(仁科淑子著「松代」8号1995より)

NO 1 於桑原村上組 眺望田原坂之図
千曲市桑原 旧桑原役場の道祖神前で描く



全体的に植生は回復しているが、佐野川沿いでは現在も崩壊が多く見られる。



佐野川支川の荏沢川、柄沢には、明治16年頃に施工された 砂防えん堤が6基残っており、国の登録有形文化財に指定されている。

NO 2 於田原坂山神社地眺望猿ヶ馬場嶺之図
千曲市桑原



霊諍山（右下）で描かれているが、現在は杉の木が繁茂し撮影できないため、県道小峰稻荷山線より撮影した。雪卿の絵を見る限り、棚田に地すべりは見られない。棚田の上部はJR篠ノ井線や中央道が横切っている。現在棚田は地すべり防止区域に指定されている。姨捨山（田毎の月）は、平成11年国の名勝に指定されている。



霊諍山の山頂で描かれた

NO 3 田原坂九折御通行之図
千曲市桑原 田原坂



田原坂九折の描かれた場所は、現在は樹木が繁茂していて撮影が出来ない。
絵に描かれている街道は、緊急車両のみ通行可能の狭い道として現在も残っている。



部分拡大

尾根の細道に行列が描かれている。「西山中巡覽記」にも「登り坂難所に御座候」と書かれている。(巡行の状況を最初に描かれた絵図)



道はカーブが連続しており、「九折」と言う名称もうなづける。九十九折(つづらおり)の意か?

NO 4 田原坂絶頂御野立場之図
千曲市大田原



桑原（前図）より幅の狭い道（九折）を登りきると、大田原の御野立場に着く、ここからは千曲市全体が見渡せる。絵の左に描かれている松の大木は、数年前に松食虫被害で枯れたとのこと。巡行の出迎えの状況が描いている。



矢印の部分が野立場。ここには、茶屋があったといわれる。現在は千曲市のマレットゴルフ場になっている。



NO 5 中牧村大花見池之全図
長野市大岡大花見（おおげみ）



千曲市側から旧大岡村に向かって描かれている。
藩にとって、ため池は重要なものであったためか、この池を2方向から描いている。



至 千曲市



湖面に浮かぶ小島は昔と変わらない。

NO 6 於山輕井沢村地内字大花見御眺望中牧村地内大花見池之図
長野市大岡



御野立場で巡行の出迎え

千曲市大田原から小田原、旧大岡村中牧に引き継ぐ場所。大田原方面に 村民がひれ伏している。



- NO 7 於中牧村秋葉権現之社地眺望戌亥子丑寅之方遠近一園之図其一
 旧大岡村
 NO 8 於秋葉権現之社地北一園之図 其二
 NO 9 於中牧村秋葉権現之社眺望西北一園之図 其三



「松代藩主の西山中巡覧記」には、中牧村苗字帯刀 中村良左衛門宅で昼食をとってから秋葉社地へ登っている「但 中牧村秋葉社地まで大登坂、大岡往来まで次第に登り、南牧村米田和組迄平地・・・」とある。



絵を描いた場所は、現在の信州新町の文化財になっている。大月城址から描かれているが、現在はこの場所からの撮影は木が繁茂し出来ない。今も城跡（秋葉社）の石積が残る。

NO 10 内花見村高巖寺御入之図
長野市大岡村 内花見



この図を拡大すると、巡行の状況や庶民がひれ伏している状況、着物などが細かく描いてあり、興味深い。中央の杉に囲まれた高巖寺で二泊している。



拡大してみると、当時の巡行風景が良く描かれている。



今も変わらず、杉林に囲まれている。
高巖寺

- NO 11 於芦野尻村金毘羅山社地御小休所眺望未申酉戌亥之方遠近一圓之
 NO 12 於芦野尻村金毘羅山社地眺望西南之図 其二
 NO 13 於芦野尻村金毘羅山社地眺望西南之図 其三

山清路 古坂 有明山 野平

大姥山 当信川（祖室の崩壊）



蓮華岳



撮影 長野市大岡 芦野尻 県指定無形民俗文化財の道祖神から、絵が描かれた場所は撮影場所より、少し下るが、木が繁茂し撮影は出来ない。

絵が描かれた場所は、当時至るところで、地すべりが発生しているが、現在は緑に覆われていることが分かる。



県指定の無形民俗文化財道祖神
 長野冬期五輪に出展されている。



金毘羅山社地御小休所

NO 16 於門増村麓仰望之図
 長野市大岡 門増（もんぞう）



震災時の崩壊箇所（表層崩壊）は、現在は緑に覆われている。旧大岡村には門増をはじめ、読みにくい地名が多く残っている。



拡大 現在も残っている庄屋



2007年8月 撮影

NO 17 於大田和村御小休所眺望南方之図
 長野市大岡 大田和



大田和集落の市道沿いから撮影



野平地区



拡大:犀川が見える

大田和の消防倉庫付近の火見櫓から撮影。当時景色を眺めたであろう場所は公民館になっていた。

NO 18 和平村 瀧野沢之図



どのような目的で描いたか不明。



地元の方の案内で撮影したが、場所は確定的ではない。



拡大してみると、藤の花、水の流れが芸術的に描かれている。

NO 19 於川口村御昼休所眺望西之方図
 信州新町、長野市大岡 安賀



犀川左岸側の崩壊は現在も続いており、地層など細かく描かれている。



崩壊は現在も続いている。
 2007年7月撮影



下流側には、「さぎり荘」 公共の宿泊施設

NO 20 於牧田中村小峰組眺望牧野島村城跡辺之図



信州新町牧之島 左下に犀川が流れている。現在は牧野島地すべり防止区域



信州新町 興禪寺（現 興善寺）の住職 談 真田雪貫一行が、この寺にも泊まったと過去帳に書いてあるとのこと。「西山中巡覧記」には、御小休所になっている。

NO 21 於牧野島村城跡之辺眺望戌亥子丑寅卯之方図 其一

NO 22 於城跡之辺望北方図 其二

NO 23 於牧野島村城跡之辺眺望遠近一圓之図 其三

上水内郡信州新町 牧之島城跡から撮影



この下流に名勝地「久米路峽」がある。狭窄部のため上流は川幅が広く描かれている。松本方面（上流）からの舟運の終着地であり、昔は栄えた物資集積地。渡し舟の描かれている位置より、100m上流に国道19号の穂刈橋が架かっている（犀川）

現在は下流に東電の水内ダムがあるが、現在の川幅は写真で見ても、絵ほど広くない。

ここに描かれている人家は、岩倉山の崩壊で堰き止められた天然ダムにより、水没した地域であり、この絵からすると、僅か4年間で家も畑も復興したことになる。



牧野島城跡（犀峽高校のグラウンド）で撮影。右側に見えるのが信州新町の市街地。絵を描いた場所はもう少し下流側の杉林の辺りと思われる。



信州新町役場の前の国道（19号）を挟んで神部神社がある。

岩倉山の崩壊（N049を参考）で堰き止められた天然ダムの水位は、「神社裏の杉の木が少し出た位まで上昇した」という話が伝わっている。

NO 24 上条村源信寺之図 嘉永四年亥夏四月青木重謹写
 信州新町上条 嘉永四年(1851年)



鎌原桐山翁「地震記事」に「岩倉山の崩壊(N049)で堰き止められた犀川は、上流の穂刈村安光寺とこの源信寺の鐘楼が、釣鐘をつるしたまま、流された」と書かれている。如何に水位が上がったかこの絵で想像がつく。



信州新町 瑯鶴湖

現在は、源信寺(写真中央)の2km下流に水内ダムが建設され、ダム湖(瑯鶴湖)になっている。

源信寺より、約3km下流で、岩倉山の崩壊が起こり、堰き止められた水位は、現在のダム湖の水位より10数m上昇したことがこの写真でも分かる。

左の写真は、右岸側から上流に向かって瑯鶴湖を撮影

・絵図 NO. 25 ～NO. 55 は、以下の行程で描かれています。

第二回目の巡行 長野市小市、倉並 中条村梅木、小川村、七二会方面 一泊二日

嘉永2年(1849)4月26日 一日目の行程

松代城を暁八半時(午前3時過)に出発し、暮六ッ時(午後6時頃)に高山寺に
当日の天候6時頃まで曇、山中霧深く追々晴、午後は晴

馬喰町(松代城)―清野村―二軒茶屋(赤坂の舟渡)―今井村―小松原神明社(松代より二里半)―小市村舟渡―吉窪村 御見晴よろしくござ候 (小松原より十三丁)―日方―山田中村(吉窪村より二十九丁)―麻庭(山田中村より二十三丁)―麻庭 (舟窪まで大下り坂難所それより引き返し麻庭に ガス噴出箇所)

坪根村―倉並村(地すべり)―五十平(いかだいら)村―橋詰村(倉並村より二十丁)―岩草村―念仏寺村―桐窪村―梅木村(橋詰村より壱里十七丁)―菖蒲平―藤沢―太田―清水―広福寺(高福寺)―味大豆―椿峯村―こわ清水―椿峯村(高山寺宿泊)(鬼無里村を見に行く)

本日の行程 約40km

嘉永2年(1849)4月27日 二日目の行程

高山寺発から夏和 越道 山布施 有旅(うたび)方面

松代 明六ッ時過ぎ(午前三時過ぎに出発) 暮六ッ時前(午後6時前)御帰殿
終日快晴 薄暑

椿峯村(高山寺発)―成就(じょうじゅ)―上野村六地藏(明松寺)―花尾―戸石―夏和村(高山寺より6.3km余)―鴨之尾―下越道―赤芝(現:赤柴)―楡の木(現:粉)―松の木―大安寺(約10km)―笹平村舟渡―山布施村瀨成―山村山(現:村山)―青池―有旅(大安寺より5.2km)―布施五明村―布施高田村―小森(ここから篠ノ井街道で往路)―二軒茶屋(舟渡)―清野―馬喰町―松代(有旅から10km)

本日の行程 約31.5km

「松代藩主の西山中巡覧記 (仁科淑子著「松代」8号1995より)



真田幸貫一行は建物が最近復元された松代城より巡行した。(長野市松代町)
2008年9月撮影

NO 25 於小市村舟渡南涯眺望犀川北之図 其一

長野市安茂里小市方面

NO 26 於小市村舟渡望北之図 其二



犀川の左岸側に現在、国道19号が走っているが、当時は、小市の舟渡より上流は左岸川には、細い道しかなかった。当時の道は小松原と小市を舟渡で結び、対岸へ渡った

この場所の上流（小田切ダム）に国道19号の「犬戻」というトンネルがある。犬も後ずさりする程の危険な場所での地名がついた。

現在は舟渡の上流800mに両郡橋、下流500mに小市橋が架けられている。



この絵は、当時の土木構造物が細かく描かれており、拡大して見て欲しい。これは、岩倉山の崩壊で形成された天然ダムの決壊後で、地震から3~4年後の犀川左岸の状況がわかる。また、河床が高くなっていることもわかる。護岸工、牛柵と思われるものもつくりされている。



舟渡の先の谷（現在は市道）を登り、（小田切・戸隠・鬼無里方面へ）吉窪村土橋（N028）を経て吉窪城（N027）に通じる道が「塩の道」と言われていた。左に見える細い道が、現在は国道19号になっている。

NO 27 於吉窪村真神山峯犀川及遠近眺望之図
長野市吉窪



犀川が犀口付近から氾濫し、善光寺平に大洪水を起こしたが、その後、流路がやや固定し、幅の広い河床のなかで流下している状況が描かれている。犀川右岸の国役普請の施工箇所を眼下にしているが、工事の状況までは明確ではない。犀川の河床は川中島方面とほとんど高度差がないように見える。城跡からは、木が繁茂し撮影出来ないため、国道の防災工事の施工箇所上方より撮影する。 160年前の川中島平



現在は神社（吉窪城跡）になっている

NO 28 於吉窪村字土橋之図



「塩の道」戸隠方面への街道 土橋とはうまい表現である。西山中巡覧記には、「右に深沢村 左に日方、下宮野尾村、佛工殿（仏工伝）」とある。



絵にある分岐点を左に行くと吉窪城址



右に白土（ベントナイト）が見える。

天然記念物 巡礼桜 (塩生のエドヒガン桜)

小松原から「小市の舟渡」で犀川を渡り、小市から、戸隠方面に通じる古道（現在は市道）を登り、県道入山小市線と合流した所の道路沿にこの桜がある。ここを経て山田中へ通じる。旧暦の4月26日にこの道を通っているのが、桜が咲いていなかったか

2007年4月18日 撮影



樹高18.2m、幹周り7.3m、樹齢約700年の古木、枯株の幹周りから推定すると樹齢約1,500年と書いてある。

NO 29 於山田中下組天王社地望同上組震災山崩跡之図 長野市小田切山田中

(一) 小川長野線と (一) 入山小市線の交差する小田切支所前で撮影



むし倉日記によると、「山田中村 上組 下組 家100 軒程 人数500 人 押埋 39軒、潰13 軒、半潰10 軒、死失50人」とある。



NO 30 於吉窪村宮野尾村境屋平望東方之図
下宮野尾



県道小川長野線沿いの、市営「小田切園」から、宮野尾集落に下る途中で描いている。ここからは浅間山が正面に見える。

絵を描かれた宮野尾も、むし倉日記によると、「焼失3軒、潰30軒、半潰15軒、死失10人」と被害が出ている。

この場所より、N031の「宮野尾村地内字地獄硫黄火之図」まで下る。

NO 31 宮野尾村地内字地獄硫黄火之図
長野市小田切宮野尾



麻庭組 (N030) から、この地獄 (硫黄火) を見るために下り、また引き返している。



宮野尾の市道の脇に、ガスが出ているこの場所がある。現在は木に覆われているが、昭和40年代までは、麦畑などが広がっていた。戦後まで、長野市内にガスを供給しており、ガス管の残骸が多く残っている。

ガスは現在も少量ながら出ているため、「火気厳禁」の立て札があちらこちらある。

NO 32 倉並村震災山崩跡之図
長野市七二会倉並



「むし倉日記」に「押埋22軒、潰11軒、半潰6軒、死失60人」とある。この地域は現在「倉並地すべり防止区域」であり、現在も地すべり対策を進めている。



善光寺地震による崩積土が堆積した山腹の下方で、明治中期以降大規模な地すべりが発生



昭和20年代の倉並地区の風景



長野県で最初のライナープレートの集水井が施工された。

NO 33 於梅木村菖蒲平望地京原藤澤組震災山崩跡之図
中条村藤沢



「むし倉日記」に地京原組で「押埋10軒、死失80人余」、梅木村で「押埋6軒、潰50軒、半潰30軒、死失70人」とあり、虫倉山周辺の集落は被災が激しかった。



この地域は、虫倉山周辺で発生した大規模崩壊の一つ。虫倉山周辺の崩壊状況を全体的に把握することは難しく、青木雪卿も山腹5ヶ所から絵図を描いた。

岩石崩壊、巨石が斜面中段に止まっている状況が、落葉時には確認できる。(斜面上部)



NO 34 於橋詰村世間沢之辺眺望西之方図 其二

長野市七二会橋詰

NO 35 於橋詰村世間沢之辺望萩之城山図



ここでは、山頂を取り巻いて多くの崩壊・地すべりが発生しているが、この図には東方斜面に発生したものが描かれている。山頂の西方に発生したものは、N036図に描かれている。「むし倉日記」には、橋詰村「焼失1軒、潰60軒、半潰6軒、死失40人」とある。



この2枚の絵は少し離れた場所で方向を変えて描かれているが、全体風景がわかり易いように写真は同一箇所より撮影している。



現在の橋詰集落



撮影場所 県道小川長野線と県道戸倉篠ノ井線の分岐点から1.6km登った地点

NO 36 於念仏寺村桐窪組眺望臥雲院及近辺震災山崩跡之図
中条村 桐窪



「むし倉日記」に「押埋3軒、潰85軒、半潰30軒、死失30人」とある。図では地すべりを起こした山腹に道路が復旧され、人家、耕地も地震前の姿を取り戻している。



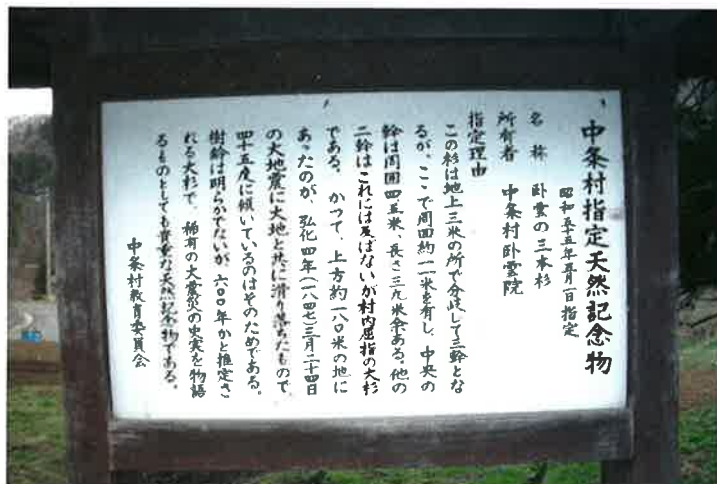
拡大
中条村指定天然記念物「臥雲の三本杉」
善光寺地震で、180m上方から滑り落ちた臥雲院の三本杉 45度に傾いている。
次ページに拡大写真

「西山中巡覧記」

「知足院組 萩野臥雲院境内には七不思議、山内に八景御座候処、弘化の変災に残り少なくなつたと村方申立」。中条村指定天然記念物 「臥雲の三本杉」は、地震の凄さを物語るものとして、一見の価値がある。近くには幹周り11mを超える、日下野大杉もある。



「臥雲の三本杉」



NO 37 於伊折村小手屋組仰望大姥権現之方図
中条村 小手屋



西山中巡覧記

「御右の方大姥大権現、虫倉大明神兩社へ、天保年中御寄付の鳥居ごさ候 但鳥居まで五丁、夫より兩社まで六丁、御往来二十三丁」とある。



絵の中の鳥居は現在も位置は変わっていない。

NO 38 伊折村太田組震災山崩跡之図
中条村清水 太田



虫倉山周辺で発生した崩壊の中で、N033の藤沢と並んで、最も規模の大きかった崩壊である。伊折村全体では、「むし倉日記」に「押埋17軒、潰15軒、半潰11軒、死失90人余」とあり、被災が激しかった地域である。



県道長野小川線の「清水の水車小屋」より上流に80mで撮影。奥に見える山は白岩峯であり、虫倉山ではない。現在は、崩積岩塊が破壊され耕土化した上に集落、耕地が出来ている。集落の下方は「千枚田」となり棚田百選の名勝地に指定されている。



白岩峯、虫倉山、丸山の位置関係は県道の小川村寄りから見ると良くわかる。

NO 39 於伊折村和佐尾村境字大久保遠望北之方図



この絵は、近景左の斜面は誇張して描いており、鳥瞰図的に描かれている。青木雪卿の絵図の中で最も特定することが難しい箇所である。遠景に描かれている集落は小手屋か？



中条村の高福寺より、小川村味大豆に旧道が続いており、この道は尾根を越えている。絵はこの頂上付近で描かれたものと思われる。現在は木が繁茂しており撮影は無理。

NO 40 於伊折村和佐尾境字大久保眺望鷹手山之図



スケッチ箇所は現在木が繁茂し、撮影が出来ないため、土尻川右岸尾根筋より撮影
1990年6月 撮影 中村三郎氏



NO 41 於椿峯村古和清水之辺眺望鬼無里村及諸峯之図
 旧鬼無里村



小川村日本記（二本木）から、長野市の鬼無里方面が眺望できる峠まで行き、引き返している。戸隠連峰を望む。



撮影場所：県道信濃信州新線沿いの祠（展望台）

絵を描いたポイントはこちらより僅か西と思われる。平成20年に道路改良で撮影が可能になった。

NO 42 椿峯村高山寺諸堂之図
上水内郡小川村高山寺

嘉永2年4月26日（泊）



創建808年 善光寺地震の大きな影響は無かった。



「西山中巡覧記」松代城を朝の3時に立ち、午後6時に着く 本日の行程 拾里二丁余（約40km）。高山寺はこの地方の最古の古刹であり、めずらしい三重塔がある（小川村誌 1269p）。善光寺地震で仁王門が倒壊しているが、本堂は無事であった。「むし倉日記」には、「地震の時に松代藩士が宿泊しており、建物の倒壊をおそれて外で夜を明かした」とある。



県宝
高山寺 三重塔

NO 43 椿峯村高山寺仁王門之図
上水内郡小川村高山寺



仁王門は移設されており、現在の位置より100m程前方に有った。小川村誌 497p には、「高山寺仁王門倒壊 仁王様両手欠ける」とある。



高山寺付近から西方面（北アルプス）を撮影

2008年2月 撮影

写真の下（近景）には、小川村の北尾、大崩、埋牧、馬曲などの地すべり防止区域が多く存在し、現在も活動しているが、人的被害が少なかったせいかな？ 雪卿は、ここからの崩壊状況は描いていない。

NO 44 上野村明松寺及近辺震災山崩跡之図
上水内郡小川村泥立



現在の明松寺



現在の明松寺

明松寺は、16年後の文久三年(1863年)には復興している。

絵図に松明寺が、描いてないところを見ると、撮影位置が違っている可能性がある。

絵図の右に見える集落が外石集落であつても、松明寺は描かれる筈だが？

この寺は馬術で北京五輪に出場した佐藤選手の実家であり、馬術の練習場が見える。

NO 45 於夏和村志神組天王社地遠望西之方図
小川村夏和



中央に見られる崩壊は、山腹上部から発生し、土尻川まで押し出している。



絵を描いた場所は、(主)長野大町線沿の丘の付近であるが、木が繁茂し撮影できない。夏和集落の上から撮影



絵を描いた場所

NO 46 夏和村山堀割通土尻川之図
小川村夏和 鴨の尾



土尻川には、曲流部の山を堀割って直流にし、旧河床を水田にしている所が何カ所かあるが、ここもその一つであり、工事が最も難行した所である。古記録によると寛政12年(1800年)から文政13年(1830年)に完成している。

鴨の橋はこの堀割の力所の下流にある。



矢印は旧土尻川の河川方向

NO 47 夏和村鴨尾橋之図
小川村夏和



土尻川に架かった木橋（鴨尾橋）

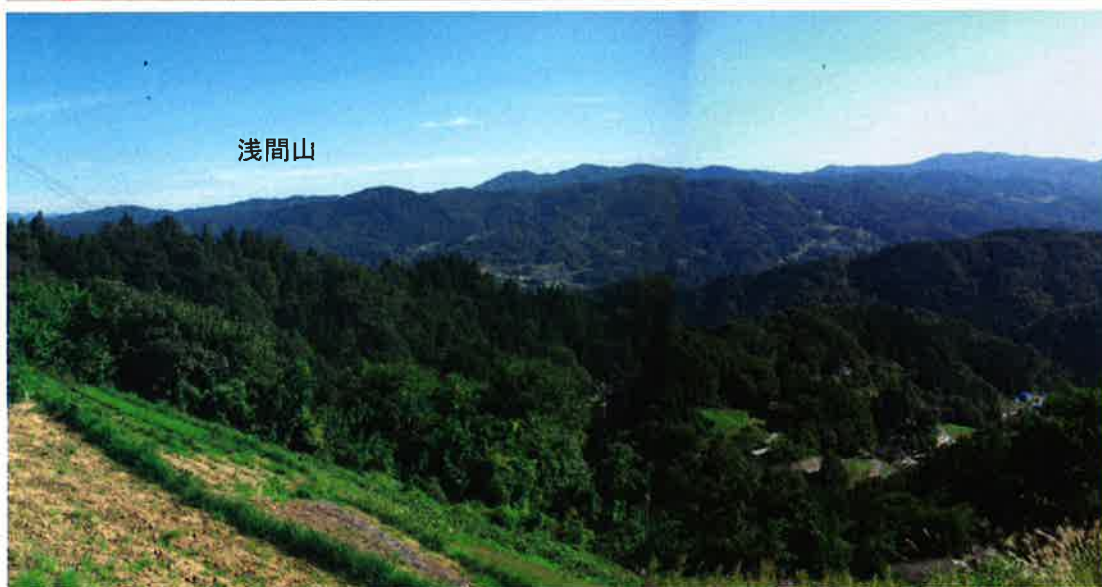


現在も鴨之尾橋の名が残っている。

NO 48 於下越道村芦沢組眺望久米路橋之方
 信州新町越道



浅間山の噴煙



浅間山

天気の良い日には、浅間山の噴煙が見える。

2008年9月25日撮影



絵を描いた場所は、豊明神社の鳥居

NO 49 於長井村地内字十石眺望岩倉山山崩塞犀川跡之図
中条村上長井



善光寺地震で発生した山崩れの中で、最も規模の大きなものが、この図に描かれている岩倉山南西斜面の地すべり性崩壊である。

崩積土が犀川を堰き止め、大規模な天然ダムが形成され、これが決壊すれば、下流に甚大な被害をもたらすことが想定されたため、松代藩も注目し、大勢の藩士が調査に来ている。この図は極めて貴重なものである。



涌池 約25,000㎡、善光寺地震前も小さな池があったが地震による地すべりで大きくなった。

NO 50 於大安寺村地内字舞台望長井坂及土尻橋之図
 長野市七二会大安寺



「むし倉日記」には、土尻橋が落橋したとあるので、新しく架け替えられた橋



市道 松の木方面に至、現在の土尻橋



現橋の橋銘版



NO 51 於笹平村望犀川南涯之図
長野市七二会笹平



笹平のダムより撮影。絵を描いた場所は水没している。



現在は、ダムの湛水池や植生が回復している為に、比較が難しいが、一部植生が回復して無い箇所に往時の地層が確認出来る。

NO 52 於笹平村舟渡南涯望北一圓之図
長野市七二会笹平



「むし倉日記」に、「笹平村 潰70軒、半潰3軒、死失25人」とある。



舟渡の直下流に、東京電力の笹平ダムが建設されているため、下流側のみ撮影可能、下流に見えるのが瀬脇地区。



左の岩は、右岸側の船着場跡



上流 ダム湛水池

NO 53 於山布施村熊野権現之社地望芝池及隴澤中尾山邊之図
長野市山布施



堤防が嵩上げされたため、描かれた場所の上で撮影した。



絵図にある祠は現在、嵩上げされる前の堤防下におかれている。

NO 54 於有旅村庚申塔之邊眺望南方一圓之図
長野市有旅



長野市有旅（茶臼山）から千曲市方面を一望している。この図はN055図とほぼ同じ所で描いており、松代藩（善光寺平）の復興状況を描いたものと思われる。

NO 55 於有旅坂御野立所眺望東方一圓之図 嘉永三庚戌夏五月
 青木重謹写
 長野市篠ノ井山有旅



N054図と同じ。善光寺平、松代城などが一望できる。
 この絵が描かれたのは、地震から4年後（嘉永3年）であり、岩倉山の崩壊により、堰き止められた天然ダムの決壊による被災地の復興状況が良くわかる。

・絵図 NO. 56 ～NO. 69 は、以下の行程で描かれています。

第一回目の巡行 長野市裾花川左岸 茂菅、鑪(たたら)、上ヶ屋方面 日帰り

嘉永2年(1849)3月29日 善光寺地震から2年後

暁八ッ時過ぎ(午前3時出発) 暮六ッ時(午後6時頃) 御帰殿

当日の天候 この日快晴、夕方小雨

松代から西寺尾の舟渡(千曲川) — 小島田村 — 丹波島 市村の舟渡(犀川) — 松代街道
(松代～豊野町神代宿) を往く (城から丹波島まで二里)

中御所村 — 妻科村(丹波島より一里十丁余) — 茂菅(もすげ)村 静松寺(じょうしょう)
裏大門) — 鑪(たたら)村(妻科より一里二丁) — 桜村(鑪(たたら)村より十二丁) — 新屋
— 百舌鳥原(もずがはら)(桜村より二十三丁) — 軍(ぐん)足(だり)組 — 上ヶ屋 上ヶ屋本
陣 中沢五左衛門(百舌鳥原より二十八丁) — 鑪村 — 茂菅(上ヶ屋本陣より二十八丁) —
往路と同じ道 (三里十丁)

本日の行程 約 41.8 km

「松代藩主の西山中巡覧記 (仁科淑子著「松代」8号1995より)

NO 56 於鑪村塩畑眺望東南之図
長野市芋井



この図では旭山の北山腹で発生した崩壊やその上流の裾花川沿いの川岸欠壊の状況がよくわかる。

茂菅村から善光寺に通じる裾花川の左岸も崩壊したため、村民が急坂に細い道をつけている。藩主の巡行は、このため川沿いの道を通らず、新諏訪から、山腹の道を上り静松寺裏大門を抜け、鑪村、軍足池へ向かっている。裾花川左岸には茂菅の集落が見える。



新諏訪からの旧道が現在は遊歩道として整備されている。



現在の静松寺本堂

NO 57 鑪村震災大岩崩跡之図
長野市芋井



三面観音



長野市鑪の県道長野戸隠線（戸隠入山街道）の三面観音付近は岩欠（いわかけ）という地名が残っており、当時、絵に残された場所は、旧道沿いの（左上写真）場所ではないかと思われる。

その付近には巨石があちこちに、点在している。



NO 58 於桜村土肥坂望鑪村震災山崩跡之図
長野市芋井



脚部の溪流は、にごり沢で、地震時にせき止められたが、地域住民の手で掘割が行われている。
「むし倉日記」に「潰家22軒、死失10人余」とある。



絵を描いたところは、陽陰殿神社 鳥居
には変わった額



2008年7月撮影

NO 59 於桜村鳥ヶ峯見貉京之図



この山の向かって左下方が、大規模な七久保の地すべり地で、裾花川まで土砂が押し出したことがある。



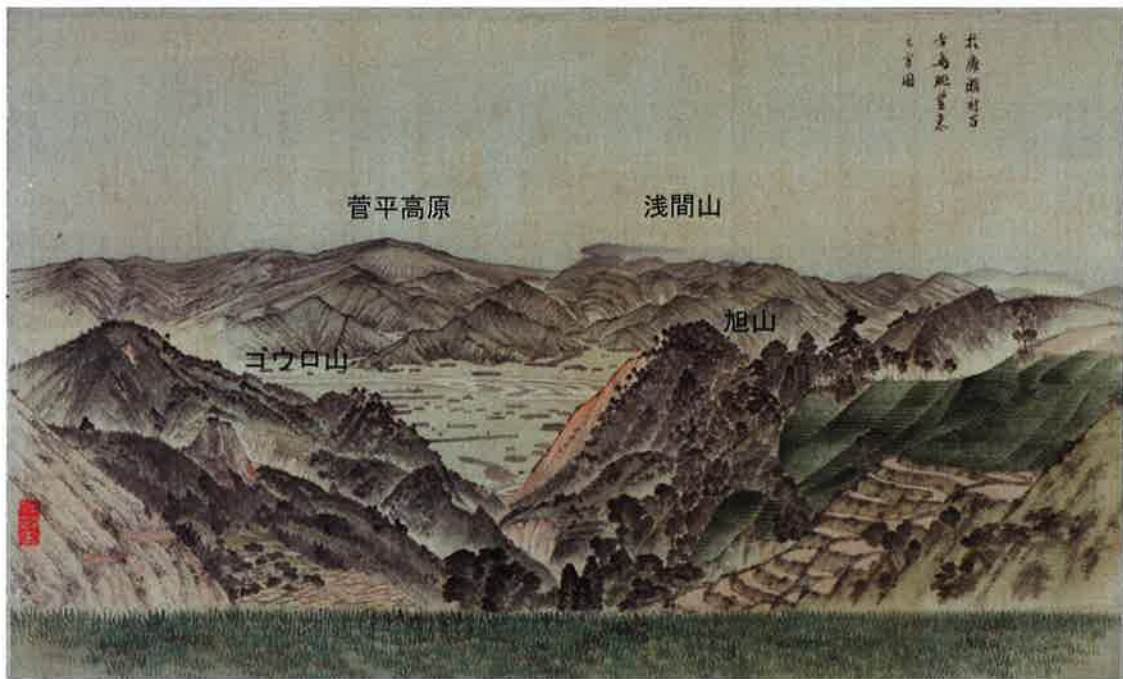
昭和40年代までは、石取場あった
通称 ゴウロ山 市営体育館脇で撮影

この場所は柱状節理が発達しており、
地質を勉強している見学者も多い。

長野市七久保地籍



NO 60 於広瀬村百舌鳥眺望東方之図



旭山は現在も表層崩壊しており、山脚部では法枠工などの対策が実施されている。天気の良い日には正面に浅間山が見える。

長野市広瀬 百舌鳥より2008年8月撮影

NO 61 広瀬村百舌鳥原震災山崩跡之図



廣瀬村百舌鳥
原震災山崩迹
之図

桜村 「むし倉日記」に「焼失15軒、潰10軒、押潰8軒、半潰15軒、百舌鳥原と申所耕地大抜」とある。



県道脇を30m程登ったところに筆塚があり、絵を書いたといわれる場所がある。付近には古い石碑がいくつか安置されている。

2008年7月 撮影



NO 62 於広瀬村地内軍足池之辺眺望
鬼無里村往来之方図



「むし倉日記」に「広瀬村同村分地へ取付候 グンダリと申場所 余程広き田に御座候。」
現在も急坂を車で登りきると、田圃が広がっており、右に軍足池が公園として整備され市民の憩いの場として利用されている。



NO 65 於桜村名無木之下眺望東南
長野市芋井



この場所は、N058図の崩壊地の下に位置する。正面に鑛集落が見える
名無木について

名無木は（左端）現在も残っている。現在の石碑に「天然記念物 おぎにれ」と書いてあり、ニレ科の秋楡（アキニレ）のことか？



NO 66 上ヶ屋村達橋飛瀑之図
長野市上ヶ屋 不動滝



絵を描いた場所へは、参道も整備されており、5分程度で滝まで行くことができる。現在は神社が建てられており、絵を描いた場所からは写真が撮れない。
滝の周辺は現在も表層崩壊が進んでおり、滝の位置も昔とは変わっているとのこと。

- NO 67 於上ヶ屋村御本陣眺望子丑寅之方図 其一
 長野市上ヶ屋
 NO 68 於上ヶ屋村御本陣眺望之図 其二



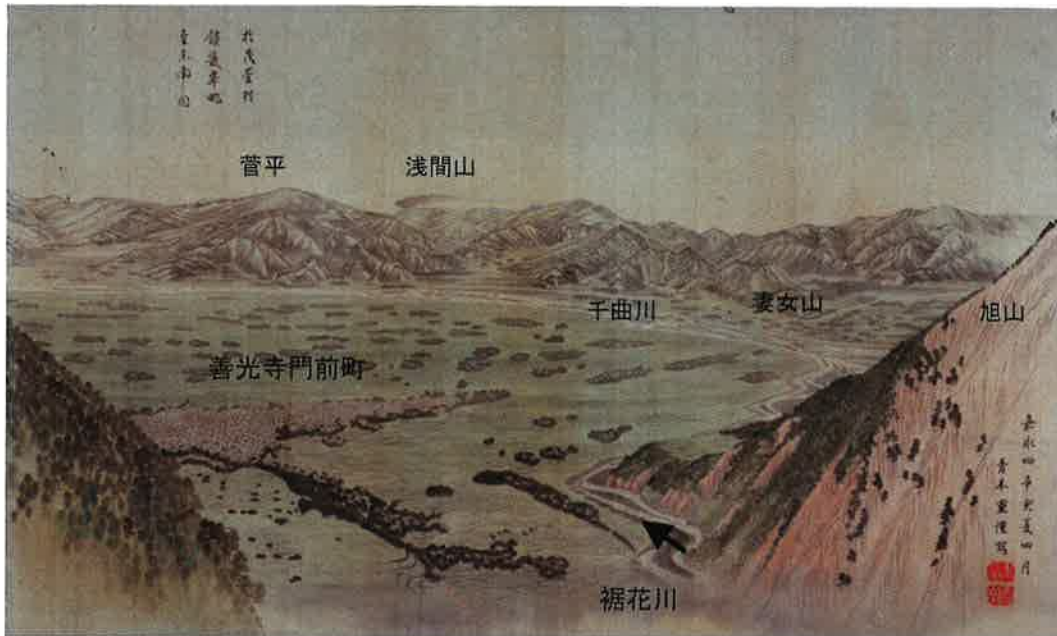
中央に見える崩壊は泉平集落の西北斜面の発生したもので、水田の被害はあったが、人家に被害はなかった。松代藩士の地震後の調査でも現地まで行ってない。現在は全体を見る限り崩壊は無く安定している。鳥瞰図的な描き方であり、現地でこの構図で撮影は出来ない。



現在の中沢家御本陣（左）。この場所からの眺望と描かれているが、隣接する本郷神社（右）が小高い所にあり、ここで撮影した。

NO 69 於茂菅村鎮護峯眺望東南之図
青木重謹写 長野市茂菅

嘉永四年亥夏四月



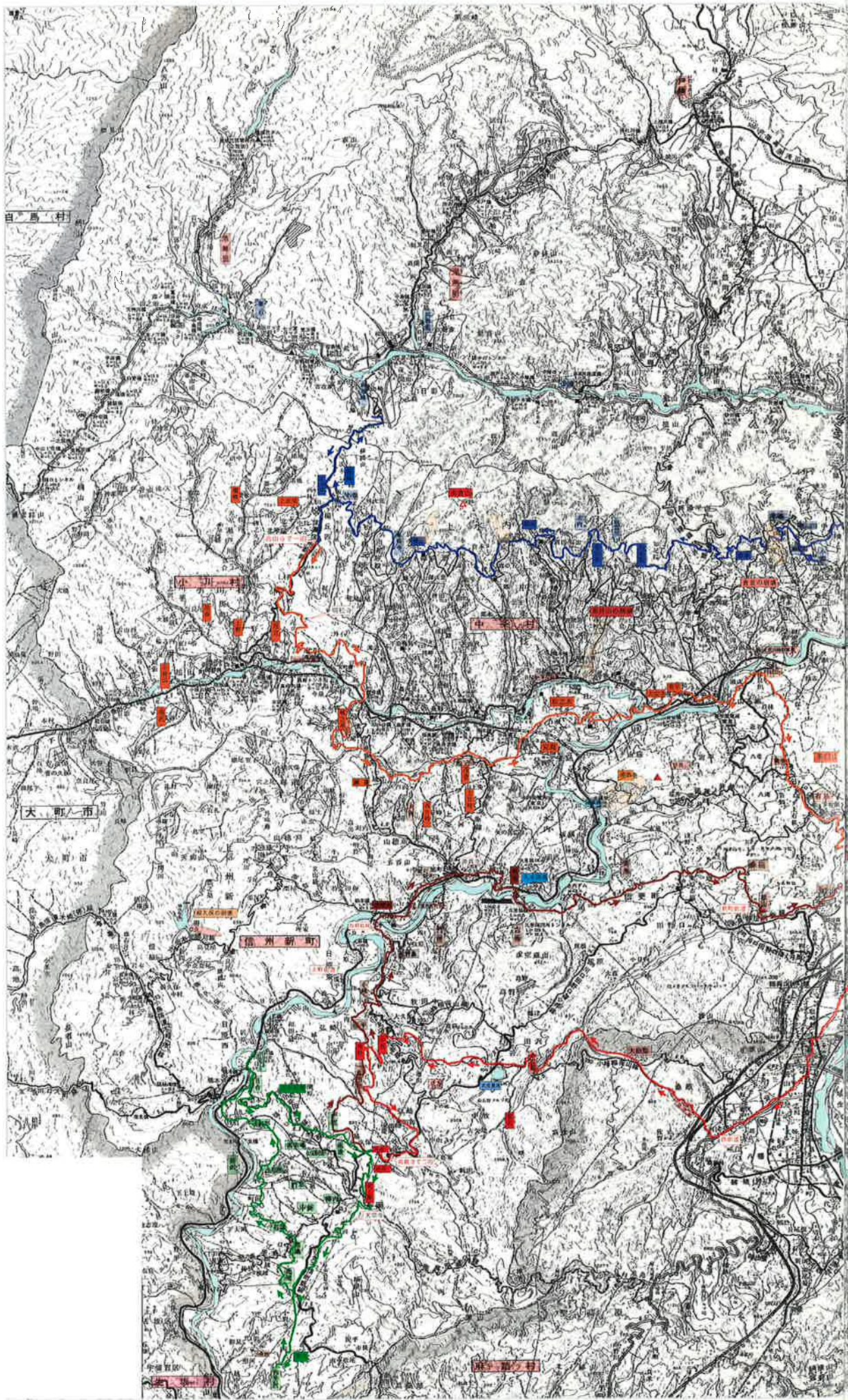
鎮護峯は山城の支城のあった頼朝山とよばれる山で、善光寺がよく見える。絵図では、善光寺門前町の状況がうかがえる。



長野市茂菅 国道406号が改修して建設されている。裾花川が流れは変わっている。



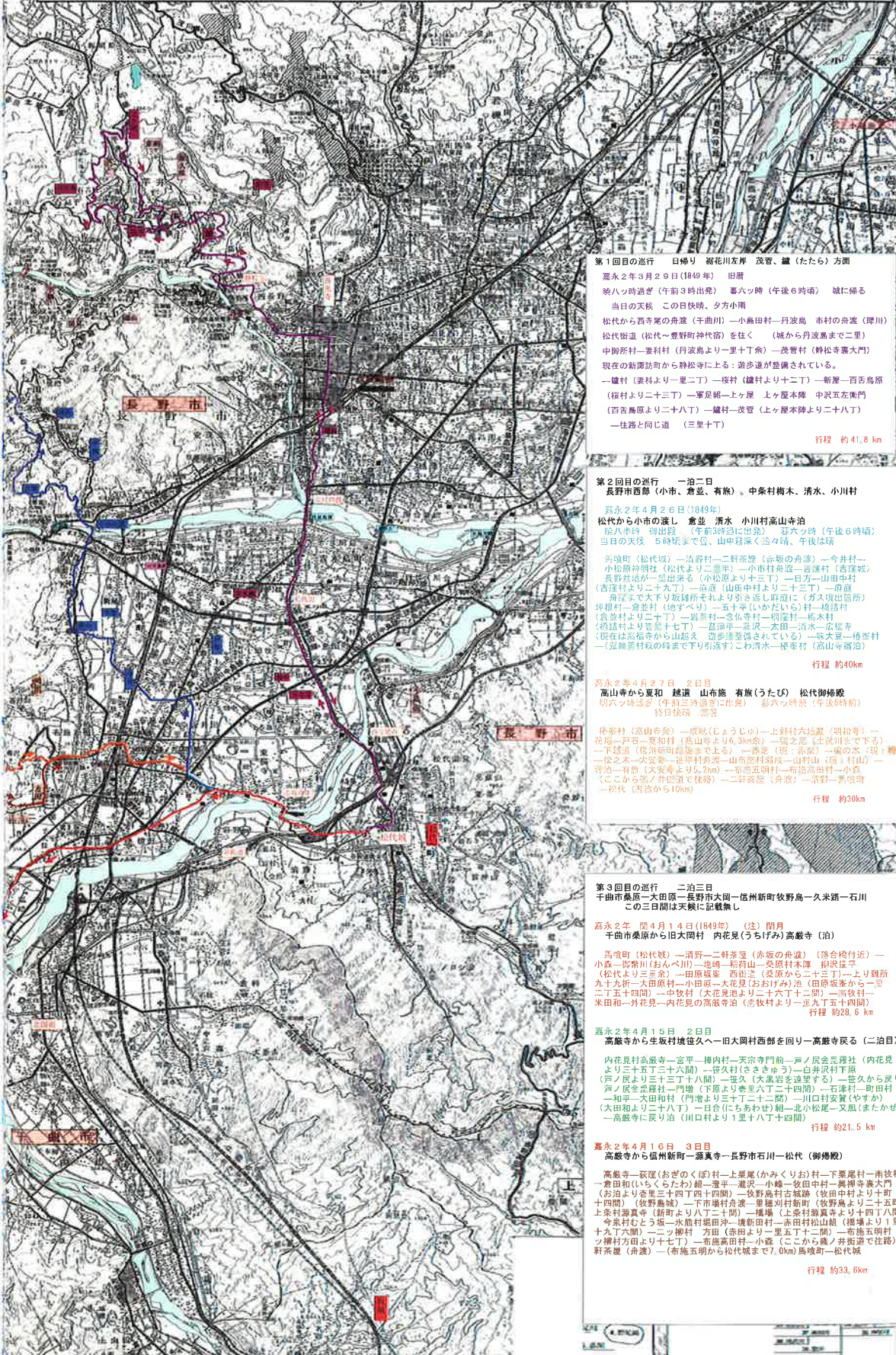
青木雪卿の絵図には、浅間山が数多く描かれている。
(NO30, 48, 49, 60, 69に)



松代藩 八代藩主 真田幸貫の巡行経路

「松代」8号 真田宝物館発行 仁科淑子

- 嘉永二年(1849年) 地震から二年後に巡行した道を管内図に再現した。
- 経路説明とカラーを合わせてある。



第1回目の巡行 日帰り 裾花川左岸 茂苜、鐘(たたら)方面
嘉永2年3月29日(1849年) 旧暦
朝八ツ時過ぎ(午前3時出発) 暮六ツ時(午後6時頃) 城に帰る
当日の天候 この日快晴、夕方小雨
松代から西寺尾の舟渡(千曲川) 一小島田村一舟渡島 市村の舟渡(深川)
松代街道(松代~豊野町神代宿)を往く (城から舟渡島まで二里)
中御所村一妻科村(舟渡島より一里十丁余) 一茂苜村(幹松寺裏大門)
現在の駒澤町から幹松寺に上る: 遊歩道が整備されている。
一鐘村(妻科より一里二丁) 一松村(鐘村より十二丁) 一新渡一西舌高原
(松村より二十三丁) 一翠足柳一上ヶ屋 上ヶ屋本陣 中沢五左衛門
(西舌高原より二十八丁) 一鐘村一茂苜(上ヶ屋本陣より二十八丁)
一往路と同じ道 (三里十丁) 行程 約41.8 km

第2回目の巡行 一泊二日 長野市西部(小市、倉並、有敷)、中条村梅木、清水、小川村
嘉永2年4月26日(1849年)
松代から小市の渡し 倉並 清水 小川村高山寺泊
朝八時半 朝出発(午前3時頃に出発) 暮六ツ時(午後6時頃)
当日の天候 5時頃まで曇、山中霧深く曇々晴、午後快晴
一高崎町(松代城) 一清野村一軒茶屋(赤坂の舟渡) 一今井村一
小松原神社(松代より二里半) 一小市村舟渡一三連村(吉達城)
長野市西部が一里出づる(小松原より十三丁) 一白方一山田中村
(吉達村より二十九丁) 一麻原(山田中村より二十三丁) 一前原
舟渡まで大下り坂跡所れより引き返し舟渡に(力大須出宿所)
坪原村一倉並村(地所より)一五十平(いぬだいら)村一松村
(倉並村より二十丁) 一茂苜村一念仏寺村一御座村一梅木村
(松村より三十七丁) 一蓮沼村一翠足一犬田一清水一松村寺
(現在高橋寺から山越え 遊歩道整備されている) 一松村一梅木村
一(寛永新刊の緯まで下り引越す) 一清水一松村(高山寺宿泊) 行程 約40km

嘉永2年4月27日 二泊三日 高山寺から夏和 穂波 山手館 有敷(うたひ) 松代御場殿
朝六ツ時過ぎ(午前3時頃に出発) 暮六ツ時(午後6時頃)
終日快晴 霧曇
舟寄村(高山寺泊) 一原野(じょうじの) 一上野村六地蔵(明松寺) 一
花野一戸石寺(高山寺より6.3km余) 一宿之本(土佐川まで下る)
一平尾渡(信州新町筋まで下る) 一穂波(穂: 赤坂) 一原の次(説)
一松より一丈一丈一松村舟渡一山手館村筋一山手館(穂: 村山) 一
一宮田一有敷(大原より5.2km) 一高野五郎村一高野高田村一小野
(ここから高野谷宿まで往路) 一軒茶屋(舟渡) 一清野一有敷宿
一松代(高崎から10km) 行程 約30km

第3回目の巡行 二泊三日 千曲市桑原一大田原一長野市大岡一信州新町牧野島一久米路一石川
この三日間は天候に記憶無し
嘉永2年 閏4月14日(1849年) (注) 閏月
千曲市桑原から旧大岡村 内花見(うちげみ) 高敷寺(泊)
高崎町(松代城) 一清野一軒茶屋(赤坂の舟渡) (路合格付近) 一
小森一寄寄川(おんべ川) 一池田一船荷山一安原村本陣 松城屋平
(松代より三里三十四丁四十四間) 一牧野島村本陣跡(牧野中村より十丁
九十九折一大田原村一小田原一大花見(おおけみ) 池(田原坂から一里
二丁五十四間) 一中牧村(大花見池より二十六丁二十四間) 一高野村一
米田和一外花見一内花見の高敷寺泊(赤坂村より一里九丁五十四間) 行程 約28.6 km

嘉永2年4月15日 二日目 高敷寺から生坂村境迄久一旧大岡村西部を回り一高敷寺戻す(二泊目)
内花見村高敷寺一宮平一榑村一安宗寺門前 一戸ノ原金蔵神社(内花見
より三十三丁三十三間) 一笹久村(さきくら) 一白井沢村下原
(戸ノ原より三十三丁十八間) 一笹久(大黒岩を遠望する) 一笹久から戻り
戸ノ原金蔵神社一門地(下原より三十三丁二十四間) 一石津村一御田村
一和原一大田和村(門前より三十三丁二十四間) 一川口村安齋(やすか)
(大田和より二十八丁) 一日倉(にらあむ) 一北小松原一又風(またかぜ)
一高敷寺に戻り泊(川口村より一里十八丁二十四間) 行程 約12.5 km

嘉永2年4月16日 三日目 高敷寺から信州新町一源真寺一長野市石川一松代(御場殿)
高敷寺一坂窪(おぎのくぼ) 一上栗尾(かみくりお) 一下栗尾村一南牧村
一若田和(いちくらたわ) 一榑村一蓮沼一小松原一牧野中村一興神寺裏大門
(松代より三里三十四丁四十四間) 一牧野島村本陣跡(牧野中村より十丁
十四間) (牧野島城) 一市原村舟渡 一穂波刈村新町(牧野島より二十五町)
上条村源真寺(新町より八丁二十四間) 一榑村(上条村源真寺より十四丁八間)
寺家村むとう坂一水原村高田沖一榑村一赤田村松山郷(榑村より一里
十九丁六間) 一三ツ柳村 乃田(赤田より一里五丁十二間) 一布地五明村(三
ツ柳村より十七丁) 一布地五明村一小森(ここから麓一井街道で往路)
一軒茶屋(舟渡) 一(布地五明から松代城まで7.0km) 馬城町一松代城
行程 約33.6 km

【参考文献】

- ・「長野県の砂防 1972」長野県土木部砂防課・長野県治水砂防協会
- ・「長野県砂防史 1992」長野県土木部砂防課・長野県治水砂防協会
- ・「長野県の砂防 2001」長野県土木部砂防課、「長野県の砂防 2008」長野県建設部砂防課
- ・「犀川砂防事務所誌」長野県犀川砂防事務所・長野県治水砂防協会犀川支部
- ・「姫川砂防事務所開設五十周年記念誌」長野県姫川砂防事務所・長野県治水砂防協会姫川支部
- ・「土尻川砂防事務所設置 50 周年 土尻川砂防のあゆみ」長野県土尻川砂防事務所・長野県土尻川治水砂防協会
- ・「松本砂防のあゆみ-信濃川上流直轄砂防百年史-」建設省北陸地方建設局松本砂防工事事務所
- ・「松代群発地震記録」長野県
- ・「長野県西部地震の記録」長野県
- ・「長野県西部地震災害 砂防地すべり激特事業（長野県王滝地区）」長野県土木部砂防課・長野県木曾建設事務所
- ・「復旧への足跡-地附山地すべり対策事業の記録-」長野県土木部・長野建設事務所、「地附山地すべり機構解析報告書 資料集」地附山地すべり機構解析検討委員会
- ・「平成 7 年 7 月長野県北部 梅雨前線豪雨災害復旧の記録」長野県土木部
- ・「被害状況と復興の概要-平成 7 年 7 月豪雨災害」長野県姫川砂防事務所
- ・「被害状況と対策の概要 平成 7 年 7 月 11 日～12 日の梅雨前線豪雨災害」長野県土尻川砂防事務所
- ・「茶臼山地すべりの記録」長野県土尻川砂防事務所
- ・「倉下地すべり」長野県姫川砂防事務所
- ・「清水山地すべり」長野県土木部砂防課
- ・「下石川地すべり対策の記録」長野県土尻川砂防事務所・長野県土尻川治水砂防協会・下石川地すべり対策安全協議会
- ・「早稲田地区 井戸地すべり災害記録誌」阿南町・早稲田地区
- ・「地すべり研究（第 35 集）」全国地すべりがけ崩れ対策協議会
- ・「日本の地すべり 災害事例写真集」砂防広報センター
- ・「全国地すべりがけ崩れ対策協議会現地討論会資料富士見平地すべり」全国地すべりがけ崩れ対策協議会・長野県
- ・「川中島建設のあゆみ」川中島建設株式会社
- ・「新潟県の地すべり災害と対策の歴史」（社）日本地すべり学会新潟支部・（社）新潟県地質調査業協会・（社）斜面防災対策技術協会新潟県支部
- ・「七二会村誌」七二会村
- ・「長野県の地すべり 1965」長野県、「長野県の地すべり 1970」長野県地すべり対策協会・長野県治水砂防協会、「長野県の地すべり 1980」長野県・長野県地すべり対策協会、「長野県の地すべり 1984」長野県・長野県地すべり対策協会、「長野県の地すべり 1988」長野県・長野県地すべり対策協会、「長野県の地すべり 1993」長野県・長野県地すべり対策協会、「長野県の地すべり 1997」長野県・長野県地すべり対策協会、「長野県の地すべり 2001」長野県・長野県地すべり対策協会、「長野県の地すべり 2002」長野県・長野県地すべり対策協会、
- ・「裾花川地区民有林直轄地すべり防止事業の沿革」中部森林管理局・北信森林管理署・裾花川第一治山事業所
- ・パンフレット：「落合地すべり対策事業」長野県土木部中野建設事務所、「地附山地すべり対策事業平成 5 年 3 月」長野県土木部・長野建設事務所、「倉並地すべり昭和 58 年 10 月」土尻川砂防事務所、「倉並地すべり 1992」長野県土木部土尻川砂防事務所、「倉並地すべりとその対策」長野県土尻川砂防事務所、「平成 7 年度災害関連緊急地すべり対策事業飯山市滝の脇」長野県土木部・飯山建設事務所、「柵池地すべり」姫川砂防事務所、「茶臼山地すべり」長野県土尻川砂防事務所、「茶臼山地すべり 1988」長野県土木部土尻川砂防事務所、「茶臼山地すべり 1992」長野県土木部土尻川砂防事務所、「茶臼山地すべり 1997」長野県土尻川砂防事務所、「味大豆地すべり 1998」土尻川砂防事務所、「奈良尾地すべり 1980」長野県、「小土山地すべりの復旧」長野県北安曇地方事務所林務課

表紙の写真

- ・茶臼山地すべり・茶臼山公園（長野市）
- ・茶臼山地すべり全景（昭和51年）

裏表紙の写真

茶臼山地すべりの対策工事写真

- ・左上：えん堤 昭和27年（川中島建設株式会社）
- ・右上：調査孔 昭和39年（川中島建設株式会社）
- ・中央：頭部 昭和46年（川中島建設株式会社）
- ・左下：集水井 昭和36年（川中島建設株式会社）
- ・右下：水路 昭和46年（川中島建設株式会社）
- ・中央下：頭部 昭和後期

○発行にあたり、社団法人全国治水砂防協会及び長野県治水砂防協会の多大なるご協力をいただき感謝申し上げます。

○執筆協力者（順不同 敬称略）

- ・内藤 哲 ・望月 巧一 ・土屋 好幸 ・小野 和行 ・岩田 恭志
- ・小林 裕哉 ・飯沼 達夫 ・齋藤 博 ・菅野 孝美 ・内田 克
- ・大場 勝一郎 ・荒井 正 ・国土交通省中部地方整局天竜川上流河川事務所
- ・長野県農政部農地整備課 ・長野県林務部森林づくり推進課

○写真を提供していただいた皆様

- ・川中島建設株式会社・長野市

平成21年3月発行

編集発行：長野県建設部砂防課

〒380-8570 長野市大字南長野字幅下 692-2

電話(026)232-0111（代表）

県ホームページアドレス：<http://pref.nagano.jp>



長野県
 nagano
 つらなる つながる 信州



長野県建設部砂防課